2016（H28）年度学生実態調査報告書

2017.5.10

１．目的

本稿の目的は2016年9月に実施された本学（九州情報大学）の学生に関する実態調査の結果の概要をまとめることである．本調査の目的は，学生の実態を具体的に把握し，それに基づき，本学の教育システムをよりよく改善することにある．

本調査は大きく次の５テーマからなる．

[1] 授業について
[2] 大学教育への評価
[3] 卒業後の進路
[4] 日常生活について
[5] その他

第１のテーマでは, 授業全般に関して学生がどのような態度で参加しているのか, また, 受講した授業を全体的にどのようにとらえているのかについて７問の質問をしている．第２のテーマでは，学生にとって本学の授業がどのように役立っているのかを中心に学生の判断を４問求めている．第３のテーマでは，学生がどのような希望や展望をもっているのかについての質問を４問行っている．第４のテーマでは, 学生の日常生活の状況を４問質問している．最後に，全般的な感想の他，学生の意見を自由記入形式で求める質問が３問設定されている．

以下，本稿は次のように構成される．次の第２節では回答者の概要を示す．本アンケート調査は，１年生と３年生を対象に行われており，入学して半年経った時点での学生の実態と，大学生活も半分を過ぎ，大学生活に慣れると同時に自分の将来が気になる時期の学生の実態を把握できることが期待される．第３節では，回答結果を具体的に見ていくことにより，学生の実態の理解を深める．第４節では，本調査全体を展望し, 学生の実態に関して, どのように理解が深まったのかを振り返る．また，本調査の課題などを検討する．最後に，付録として，本調査の質問項目を示す．

２．回答者の概要

本アンケートへの回答者は160 (88)[1]名であった．その内訳は以下の通りである．

[1] カッコ内は昨年度（2015，H27）のデータを示す．以下同様.

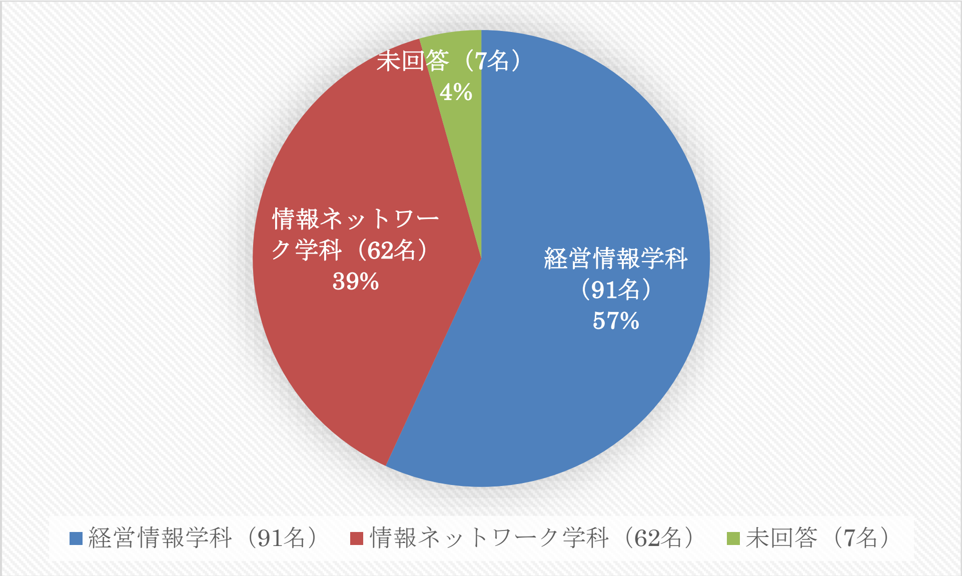


図２－１．学科別の回答者数と割合

図２－１に示すように回答者 160 名中 57%(73％)は経営情報学科に属し，39%(23％)は情報ネットワーク学科に属している．残り 4%（4％）は無回答であった．

学年別にみると 1 年生の回答者が 85 名，54%（64 名, 73%），3 年生が 72 名，45%（24 名, 27%）とほぼ 1 対 1 の割合となっており，昨年度と比較すると，今年度は 3 年生の割合が大きくなっている．

性別に関しては，男性が 110 名, 69%(56 名, 64%)，女性が 49 名, 31%(32 名, 36%)であり，男性が女性より 30 ポイント程度多い．

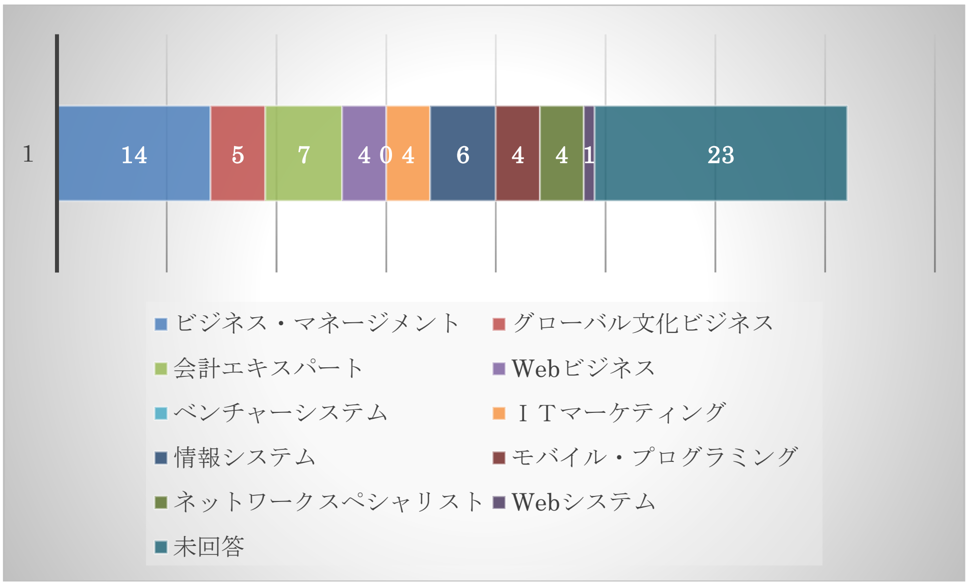


図２－２．コース別の回答者数の割合（3 年生）

図２－２にコース別の回答者数を積み上げグラフで示す．1年生はコースの選択を行っていないため，3年生のみのデータとなっている．

回答者72名中23名，32%(33%)もの回答者がコース名を回答していないため，コース別の正確な分析はできない．回答した学生の中では，経営情報学科のビジネス・マネジメントコース所属の学生が14名，19%（5名，21%）と最も多い．2番目に多いのが会計エキスパートコースの7名，10%(4名，17%)であり，この傾向は昨年度と同様である．

出身別の内訳を図２－３に示す．日本人学生91名，58%(56名，64%)に対して日本以外からの留学生は全体で68名，41%（32名，36%）となっている．

日本以外と回答した学生の内訳をみると，留学生68名中，中国が33名，21%(21名，24%)と最も多く，それに引き続きベトナム15名，9%(3名，3%)，韓国12名，8%(2名，2%)，インドネシア1名，1%，ネパール4名，2%(2名，2%)となった．回答なしは1名，1%　（3名，3%）である．昨年度と比較するとベトナム，韓国からの留学生が増加している．また新たにインドネシアからの留学生が加わった．多国籍化，多文化化が進んだとも言え，今後これらの留学生への支援を充実させることが課題となろう．

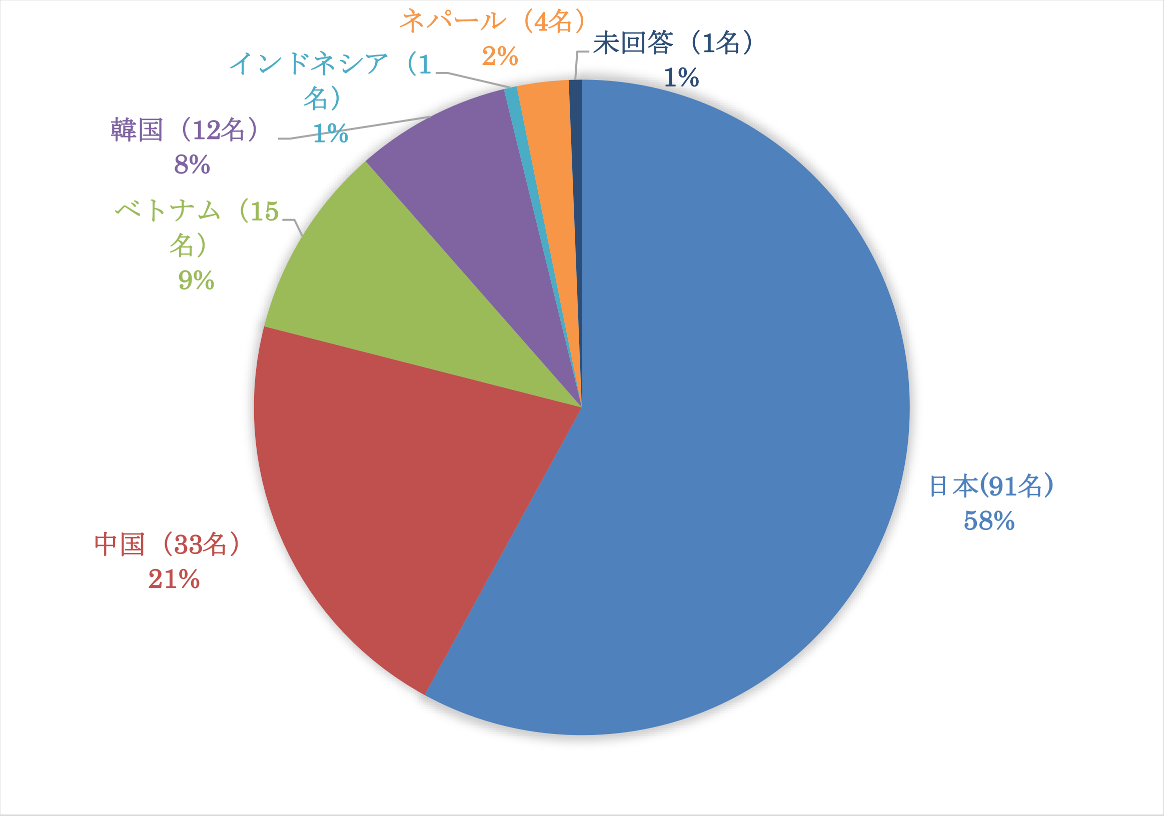


図２－３．出身地の内訳

３．回答結果

本節では，各質問項目への回答状況をみる．質問全体は，授業に関するもの，教育に関するもの，進路に関するもの，進路に関するもの，生活に関するもの，その他と５つのグループから構成されている．

3.1. 授業に関する質問

問１　大学に入ってから次のような経験はありますか、またそれは有用でしたか。

本問は次の４つの項目についての経験の有無と経験している場合の評価を求めている．

- 入学時、各学年初め、学期初めのオリエンテーション
- 高校での未習科目を学ぶための補修的な科目や大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目(大学基礎総合、コミュニケーションと自己発見など)
- 就職や将来のキャリアをテーマとした科目(キャリアデザイン入門、キャリアデザインなど)
- インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）

経験した場合の選択肢は,

1. 有用ではない
2. どちらともいえない
3. 有用
4. 非常に有用

の４つである．

本問に対する回答結果を図３－１に示す．

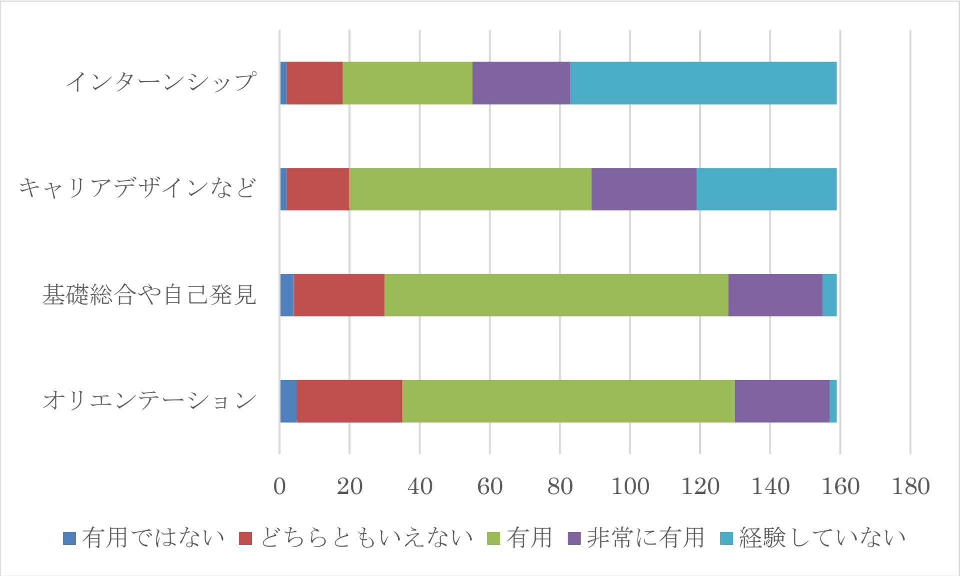


図３－１．経験に関する回答結果

オリエンテーションと補習的科目に関しては，学生達は概ね出席している．経験している学生の評価として，3／4 程度の学生が有用もしくは非常に有用と評価している．言い換えると 1／4 程度の学生が有用性を大きく感じていない．経験をどう生かすべきかに関する指導にもっと力を入れることが 1 つの課題であると解釈できる

問２　あなたにとって意味があったと思う授業を思い出してください。

本問は，学生にとって意味があった，有用であった，と感じられる授業がどのようなものであるかに関して学生自身の認識を問うものである．問は A, B の２つに分かれ，A では，割合を，B では特徴を求めている．

A.　　それはこれまで受けた授業の何割くらいですか。基礎総合科目、専門教育科目の別にお答えください。

本問の回答結果を図３－２に示す．

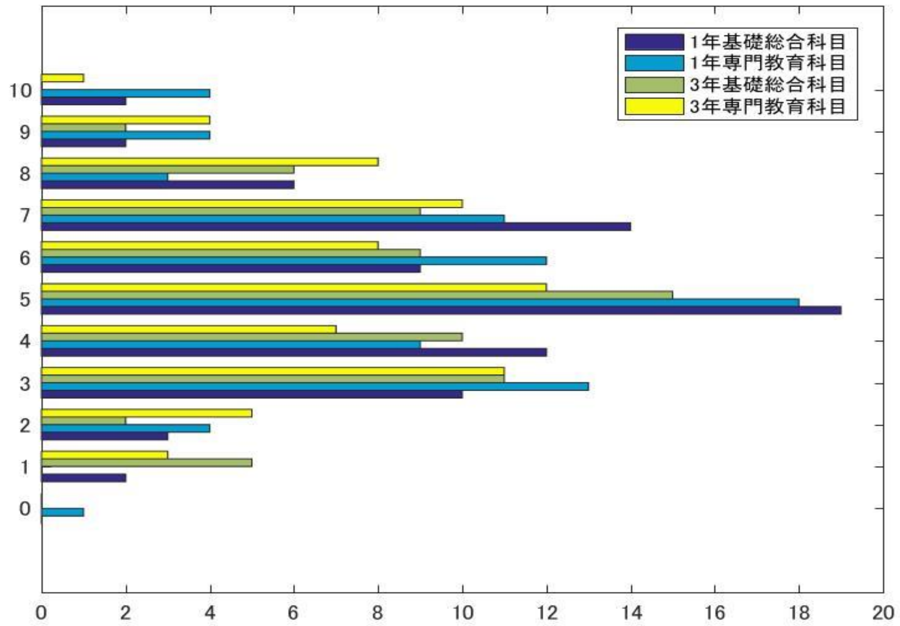


図３－２．意味のあった授業の割合別の人数分布

本問への回答は基礎総合科目，専門教育科目のいずれの場合も５割という回答への頻度が大きい．

B.　　それらの授業にあてはまる特徴はどんなことですか（○はいくつでも）。

本問は学生が「意味があった」と考える，その中身に関する質問である．基礎総合科目，専門教育科目毎に，次のいずれに該当するかを複数選択項目による回答を求めている．

- 最先端の研究成果を披露してくれた
- 確実に学問の基礎を教えてくれた
- 社会や現実との関わりから学問の意義を教えてくれた
- 将来に役立つ実践的な知識や技能を教えてくれた
- 資格の取得に役立つ情報やテクニックを教えてくれた
- 教え方がうまかった
- 自分自身や将来やりたいことを考えるきっかけになった

その結果を図３－３に示す．

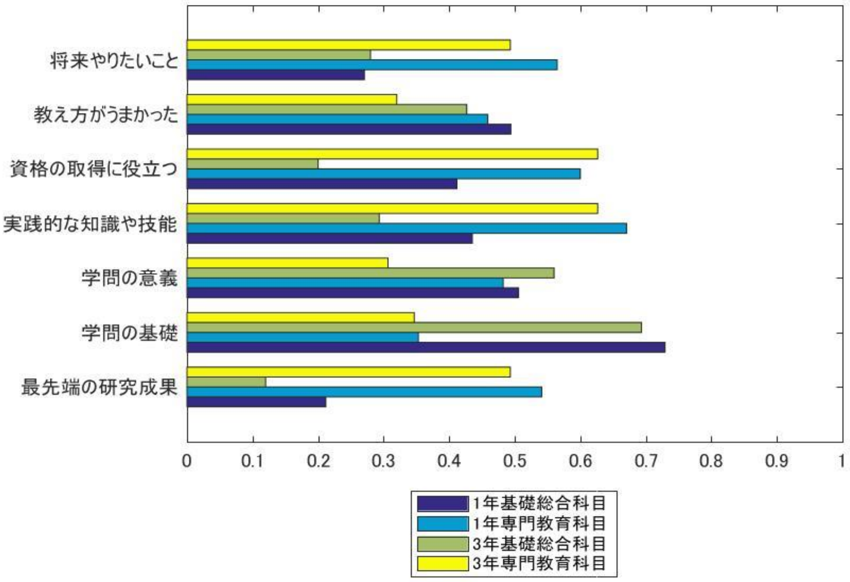


図３－３．意味があった科目の特徴の選択数の割合

図３－３によると，基礎総合科目においては，両学年ともに「確実に学問の基礎を教えてくれた」が最も頻度が高い．それに引き続き，「学問の意義」，「教え方がうまい」という項目が多く選ばれている．

一方，専門教育科目においては，全体的に実践的な知識や技能，資格の取得に役立つ，将来やりたいことや最先端の研究成果の項目が選ばれている．専門教育科目に対しては，資格や実践力など，将来直ぐに役立ちそうな知識や技能の教育が評価されている．その一方，最先端の教育成果の披露も評価されており，学んだことが直接役立つような知識・技能だけではなく，より幅広く学びたいという気持ちが見て取れる．これらの傾向は，昨年度の調査と同様であった．

問３　これまで受けた授業の形態について、全体が 10 割になるようお答えください。

本問は，授業形態に関する学生の認識を求めるものである．全体が 10 割にならない回答に対しては，合計に対する割合として補正してある．

授業形態は，次の 6 種に分類されている．

- （100 人以上）講義
- （50 人以上 100 人未満）　講義
- （20 人以上 50 人未満）　講義
- （20 人未満）　演習・ゼミ　実験・実習

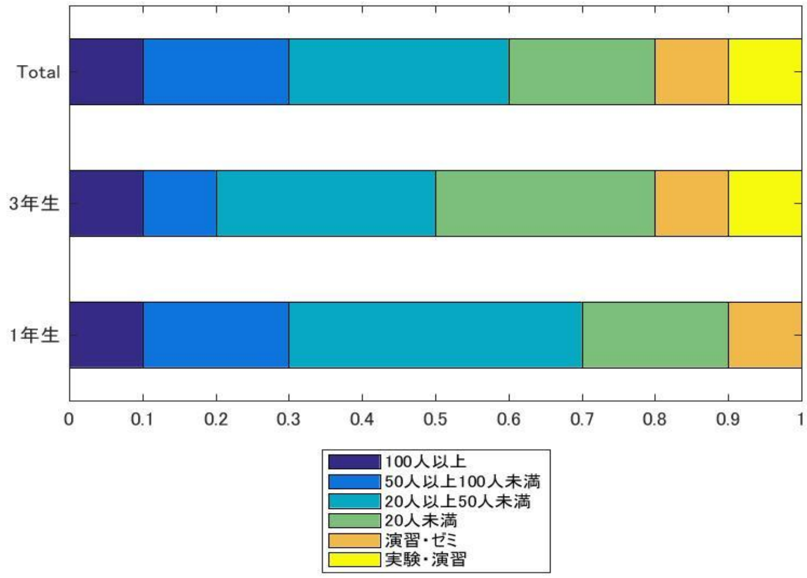


図３－４．講義形態への回答数の割合

本問への回答結果を図３－４に示す．学生からの回答によると，20 人以上 50 人未満の講義が全体の 34%と最も多く，それに続いて 20 人未満の講義が 23%，50 人以上 100 人未満の講義が 19%となっていた．昨年は 50 人以上の講義スタイルが半数弱あったのに対し今年は 50 人未満の講義スタイルが 7 割に上っていることより，少人数制の講義が増加している傾向がある．

問４　これまで受けた授業では、下のようなことがどれくらいありますか。またそれは、必要ですか。

本問は，授業スタイル（あり方）に関して，どの程度経験したか，その必要性はどうかに関する質問項目である．授業スタイルに関しては，次の６項目が設定されている．

内容：

- 授業内容に興味がわくよう工夫されている
- 理解がしやすいよう工夫されている
- 出席が重視される
- 最終試験の他に小テストやレポートなどの課題が出される
- 授業中に自分の意見や考えを述べる
- グループワークなど、学生が参加する機会がある

これらの質問に対して，回答は次のようになっている．
経験について：

1. ほとんどなかった
2. あまりなかった
3. ある程度あった
4. よくあった

必要性について：

1. 必要ではない
2. ある程度必要
3. 非常に必要

本問に関する回答結果（評価の平均値）を図３－５に示す．経験に関しては，全体的に 2.5 から 3.5 の範囲になっている．すなわち，「あまりなかった」以上，「ある程度あった」未満という回答結果になっている．その中で，出席が重視される授業が最大値となっており，本学では出席の有無が重視されていると学生が感じていることを示している．逆に最も値が低いのは「授業中に自分の意見や考えを述べる」や「グループワークなど、学生が参加する機会がある」への経験である．本学におけるアクティブラーニング推進のために，学生の意見を求める授業スタイルの強化が必要であることを示唆している．

一方，必要性に関しては，値が大きいのは，最初の 3 項目，すなわち，「興味がわくような授業の工夫」や「理解しやすい工夫」，そして，「出席重視」が学生達にとっての要望である．また，いずれの項目においても 1 年生より 3 年生の方が必要性を感じていない傾向にある。現 3 年生が 1 年生時における調査結果と比較すると，現 1 年生とはいずれの項目も有意な差はなく，現 3 年生とは「出席重視」と「グループワークなど，学生が参加する機会がある」の項目において有意に低い値となっていた($p = 0.005$, $p = 0.01$)．この結果より，入学から 2 年を経過し授業に対して積極的に参加する意欲が低下し，本来専門的な教育に入る 3 年次ではあるが，卒業の為の作業としての単位取得に走っているものと考えられる．

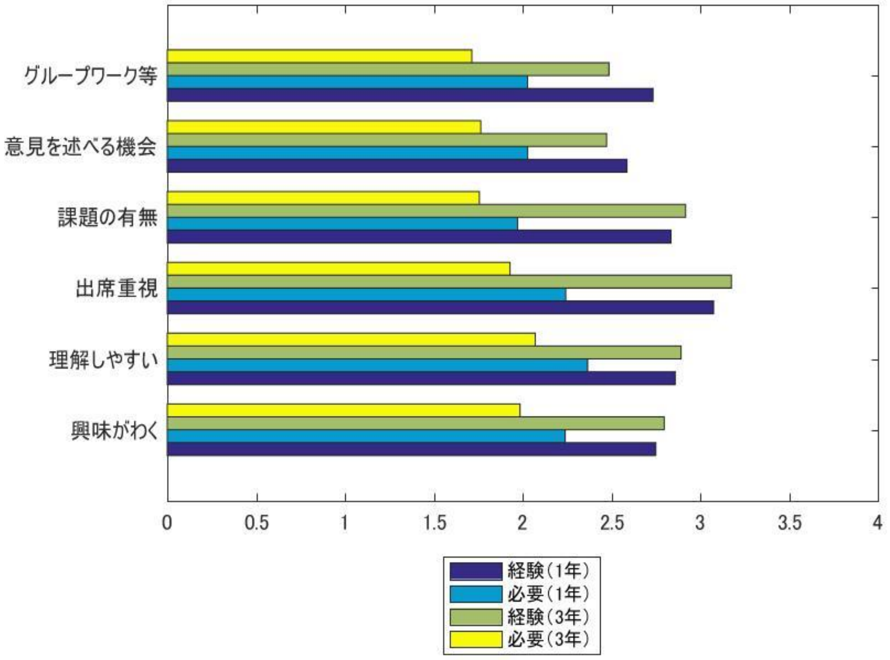


図３－５．授業スタイルに対する経験と必要性についての回答結果（必要性に関しては最大値３での平均値）

問５　あなた自身は、授業に対してどのように取り組んでいますか。

本問は，授業に対する学生自身の取り組みを問うものである．次の５項目に関して，４つのレベルでの回答を求めている．

評価内容：

- 興味のわかない授業でもきちんと出席する
- なるべく良い成績をとるようにしている
- グループワークやディスカッションに積極的に参加している
- 先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている
- 必要な予習や復習はした上で授業にのぞんでいる

評価のレベル：

1. あてはまらない
2. あまりあてはまらない

3. ある程度あてはまる
4. あてはまる

図３－６に評価結果（平均値）を示す．出席に関しては，両学年とも 3 を超えており，授業へは出席しようとしている傾向にある．それに対して，評価値が低いのは，質問や相談，そして，予習・復習である．本学の学生において，積極的な学習態度や自ら学ぶという意識や行動に課題があることを示している．

出席以外の項目において 1 年生より 3 年生が低い傾向にある．前項目同様 2 年前に現 3 年生が 1 年生の時と比較した結果，現 1 年生とはいずれの項目も有意な差はなかったが，現 3 年生は「良い成績をとるようにしている」および「予習・復習をして授業にのぞんでいる」の項目で有意に低い値となっていた（$p = 0.04$, $p = 0.01$）．前項目同様入学時にはあった学習意欲が 2 年の間になくなって来ていると考えられる．

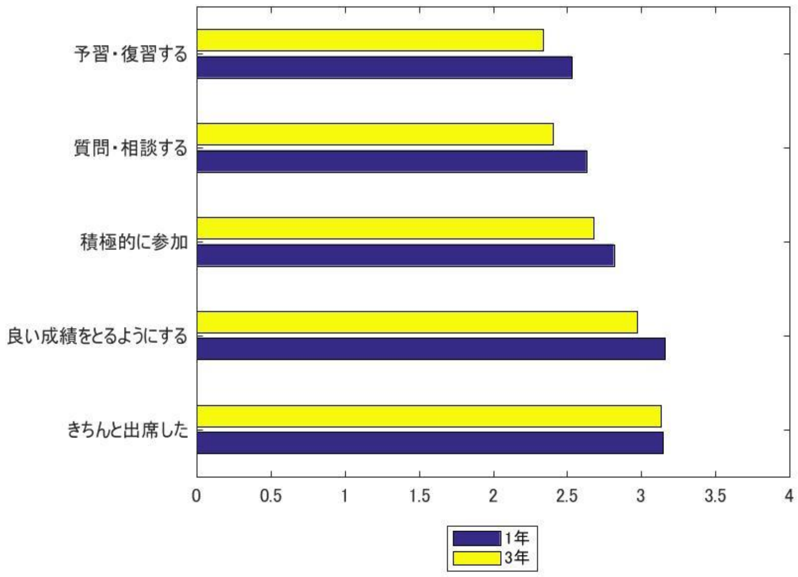


図３－６．授業への取り組みに関する学生の自己評価

問６　大学での学び方について、あなたの考えに近いものを選んでください。

本項目は，大学での学びに関する学生の考えを問うものである．質問項目はＡの項目と，その対極に当たる Ｂ 項目を提示し，どちらに近いかを選ぶようになっている．

Ａ　授業はとり方があらかじめ決まっている方がよい
Ｂ　授業は自分で好きなようにとりたい

Ａ　授業の意義や必要性を教えて欲しい
Ｂ　授業の意義や必要性は自分で見出したい

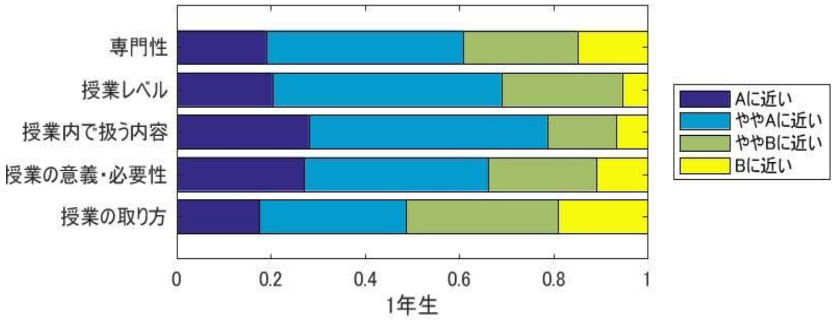
Ａ　授業の中で必要なことは全て扱って欲しい
Ｂ　授業はきっかけで、後は自分で学びたい

Ａ　自分のレベルにあった授業をして欲しい
Ｂ　授業は難しくてもチャレンジングな方がいい

Ａ　専門以外のことも広く学びたい
Ｂ　専門分野を深く学びたい

回答は以下の４項目からの選択となる．

1. Ａに近い
2. ややＡに近い
3. ややＢに近い
4. Ｂに近い



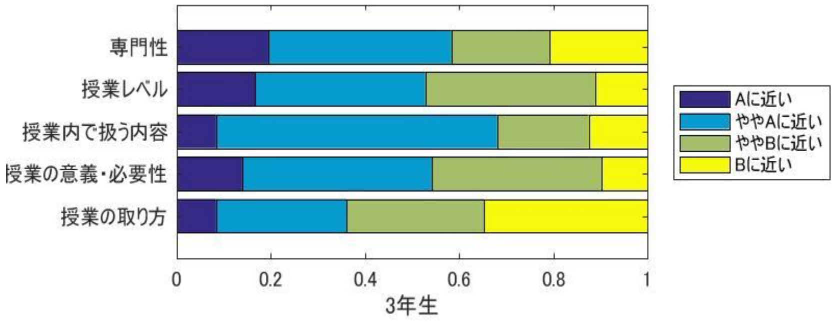


図３－７．大学での学び方に関する意識への回答結果

本問に対する回答結果を図３－７に示す．A 寄りの結果となったのは，授業の意義や必要性を教えてほしい，必要なことは全て扱って欲しい，自分のレベルにあった授業をして欲しい，専門以外のことも広く学びたいという項目であった．3 年生においては 1 年生と比べると授業の必要性は自分で見出したい，授業は難しくてもチャレンジングな方がいいと答える学生の割合が多い傾向にある．中でも，授業は難しくてもチャレンジングな方がよいと答える学生の割合は 2 年前の 1 年次の際よりも有意に増えており，2 年間の学習によって，より難しい授業にチャレンジしたいという意欲が湧いていると考えられる．その他の項目や現 1 年生との比較においてはいずれも有意差はなかった．

授業の取り方に関しては，あらかじめ決まっているよりも，自分で好きなようにとりたいという考えが優勢であり，3 年生ではより顕著に表れている．この結果は，昨年度と同様の傾向を示しており，学生の要望であると捉えることができる．

問７　あなたの成績について教えてください。

本問は，学生が自分の成績をどのように認識しているのかを問う設問である．

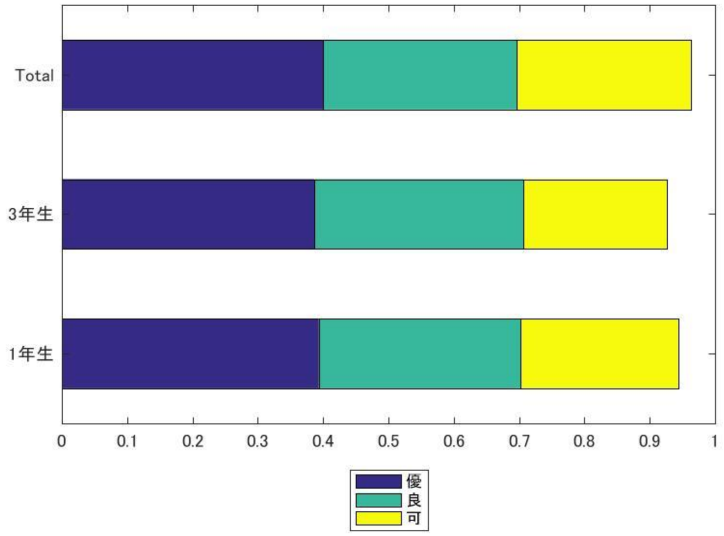


図３－８．成績に関する学生の自己認識

成績に関する学生の自己認識への回答結果を図３－８に示す. 学生が自己判断した, 優, 良, 可, 別にどの程度の割合結果は, 39%(45%)が優であり, 良 31%(30%), 可 24%（24%）となっている．本結果は，実際の成績というよりも願望も交えた認識値であるとみなすのが妥当であると考えられる. この割合に関しても昨年度と同様の傾向が見られる.

3.2. 教育に関する質問

本項目は大学教育への評価を問うものである.

問８　次の点で大学の授業は、どのくらい役立っていると思いますか。また自分の実力はどの程度あると思いますか。

本問は，大学の授業に関する９項目に対して，これまでの授業経験がどの程度役立っているか，そして，それに対する自分の実力はどの程度なのかへの回答を求めるものである.

質問項目は以下の通りである.

- 将来の職業に関連する知識や技能
- 専門分野での知識・理解
- 専門分野の基礎となるような理論的理解・知識
- 論理的に文章を書く力
- 人にわかりやすく話す力
- 外国語の力
- ものごとを分析的・批判的に考える力
- 問題をみつけ、解決方法を考える力
- 幅広い知識、ものの見方

各質問項目に対して, 授業経験および自分の実力に関して次のような項目から回答を選択する.

これまでの授業経験：

1. 全く役立ってない
2. 少しは役立っている
3. 役だっている
4. 多いに役立っている

自分の実力：

1. 不十分
2. やや不十分
3. やや十分
4. 多いに十分

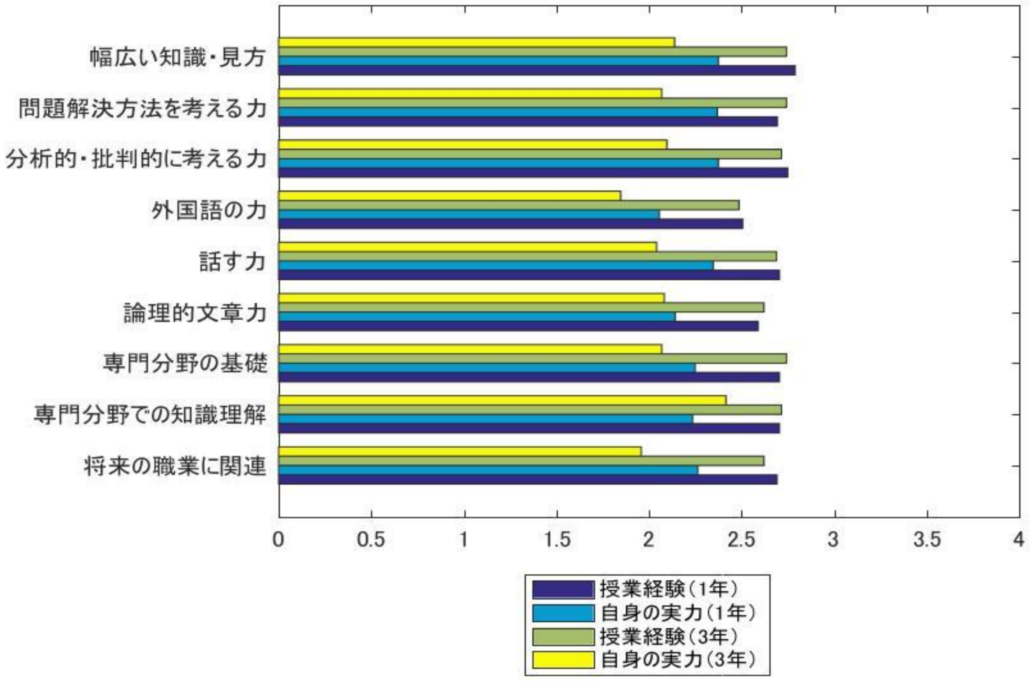


図３－９．大学の授業が学生にどの程度役立っているかに関する回答

本問に対する回答結果を図３－９に示す．授業経験に関しては，各学年ともに全ての項目で 2.5 から 3 の範囲の値であり，概ね「２．少しは役立っている」と「３．役立っている」の中間の評価となっている．もっとも評価が低いのは，「外国語の力」であり，この項目のみ 2 年前の 1 年生に比べて現 3 年生の評価値が有意に低い値を取っていた(p = 0.04)．学年を追うにしたがって外国語の力をもっと身に付けたいと感じていると考えられる．

自身の実力に関しては，1 年生が 2 から 2.5 の間であり，「やや不十分」と自己判断しているのに対し，3 年生は全項目において評価値が 1 年生よりも低い値を取っている．もっとも評価値が大きいのは，1 年生は「幅広い知識、ものの見方」，「ものごとを分析的・批判的に考える力」であり，3 年生は「専門分野での知識・理解」となっている．逆に評価値が一番低いのは両学年ともに外国語の実力であり，英語などの語学力の必要性は感じつつも実力不足を認識していることがうかがえる．この点に関しては昨年度と同様であり，またいずれの項目においても 2 年前の 1 年生と有意な差はなかった．本学は様々な国からの留学生が在籍しており，外国語を学ぶには良い環境であると言える．この多言語・多文化環境を生かした外国語学習への動機付けがもっと必要である．

問９　あなたの大学について次の点でどのくらい満足していますか。

本問は，本学について，授業以外の８項目に関する評価を質問している．質問項目は以下の通りである．

- 授業外での教員との接触（ｵﾌｨｽｱﾜｰ、ｾﾞﾐを含む）
- 図書館などの学習施設
- 実験・実習などのための施設
- 就職指導（CDC）
- 就職指導（ｾﾞﾐ教員）
- 学習・生活面でのカウンセリング
- 学習以外の大学での経験
- 大学生活全般

回答は次の４つから選択する．

1. 不満
2. ある程度不満
3. ある程度満足
4. 満足

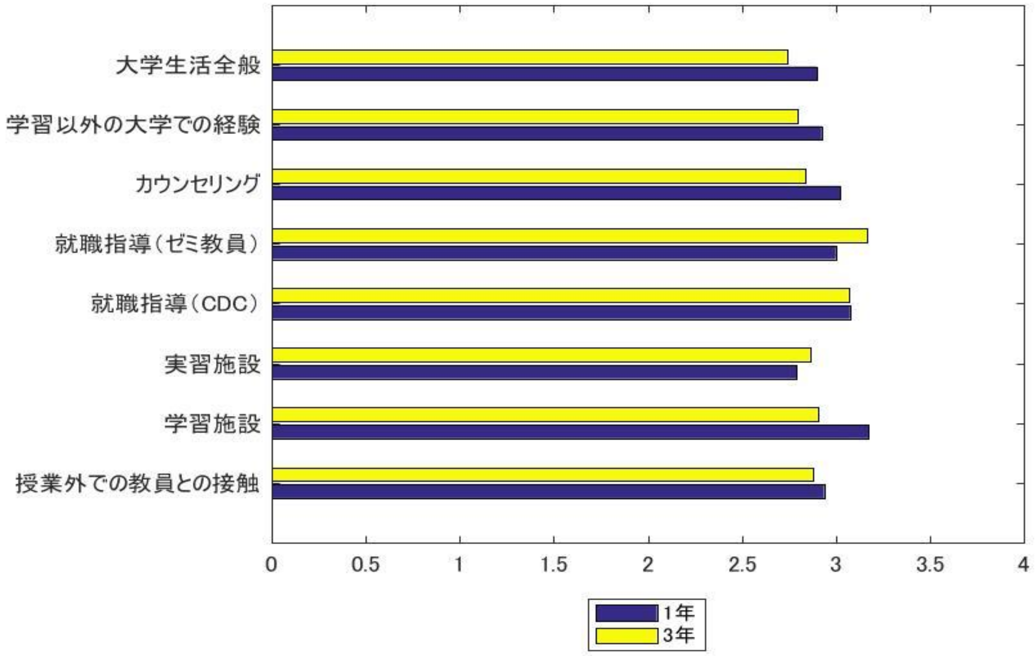


図３－１０．大学に対する満足度の回答結果

本問への回答結果を図３－１０に示す．いずれの項目に関しても，評価値は 3 前後の値をとっている．すなわち，「３．ある程度満足」という評価となる．学生の満足度が最も高いのは，1 年生は図書館などの学習施設，3 年生はゼミ教員における就職指導である．就職指導に関しては両学年ともに CDC と教員いずれも 3 を超える評価値となっており，多くの学生が満足していると思われる．逆に評価値の低い項目としては，1 年生は「実験・実習などのための施設」，3 年生は「大学生活全般」である．2 年前の 1 年生と比較すると，1 年生の実験・実習施設においては有意に低い評価値となっており($p < 0.001$)，3 年生における大学生活全般においては有意差はなかった．しかし，3 年生においては図書館などの学習施設（$p = 0.03$），実験実習施設($p = 0.007$)，学習・生活面でのカウンセリング($p = 0.02$)において有意に低い評価値をとっており, 本学の施設および心のケアに関する不満が増えていると考えられる．

問１０　大学在学中の目標として、どのようなことが重要ですか。

本問は，7 つの目標を示し，それらが，学生にとってどの程度重要であるかを回答するよう求めている．回答を求めた目標は次の通りである．

- 将来の仕事に活かせる能力を身につける
- 資格試験・公務員試験などに合格する
- 専門分野の知識・理解を深める
- 広い教養、ものの見方を身につける
- 自分の将来の方向をみつける
- 社会人になるまでの時間をエンジョイする
- 有意義な人間関係を築く

これらに関する評価の選択肢は以下の通りである．

1. 重要でない
2. 少し重要
3. ある程度重要
4. 重要
5. 最も重要

本問に対する回答結果を図３－１１に示す．

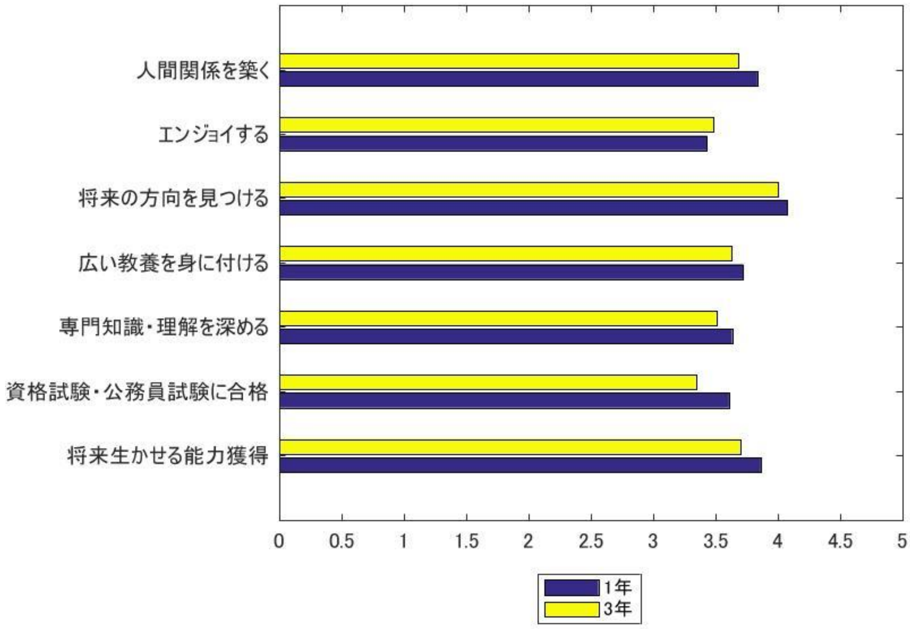


図３－１１．大学在学中の目標としての重要性

両学年ともに資格試験および大学生活をエンジョイする以外の項目において, 評価の平均値は3.5以上となっている．したがって，社会人になるまでの時間をエンジョイしようという事や, 資格試験に合格しようという事以外をある程度以上重要だと感じている．もっとも値が大きいのは，両学年ともに「自分の将来の方向をみつける」であり，「４．重要」と評価されている，次が「将来の仕事に活かせる能力を身につける」となっており，更に「有意義な人間関係を築く」と続く．全項目において両学年とも２年前の１年生とは有意差はなかった．大学在学中には遊ぶことや資格試験に合格することよりも，将来の方向性を見定め，それに備えた能力を身につけたいという学生の意識が表れている．

問１１　大学の授業とあなたとの関係についてどう思いますか。

本問は, 大学の授業がどの程度学生の将来に関連しているかに関する学生の意識を知るための設問である．次の３つの項目に関しての評価を求めている．

- 卒業後にやりたいことは決まっている
- 大学での授業はやりたいことに密接に関わっている
- 授業を通じてやりたいことを見つけたい

これらの項目に対する回答の選択肢は以下の通りである．

1. 全くあてはまらない
2. あまりあてはまらない
3. ある程度あてはまる
4. よくあてはまる

本問への回答結果を図３－１２に示す．いずれの評価値も 2.5 から 3 の間である．すなわち，「２．あまりあてはまらない」と「３．ある程度あてはまる」の間であり，どちらかというと「ある程度あてはまる」という結果となった．特に，「授業を通じてやりたいことを見つけたい」という項目が両学年ともに一番高い評価値をとっており，学生の授業への期待と見ることができる．いずれの項目においても 2 年前の 1 年生との差はなく，全体の傾向としても昨年と同様であった．

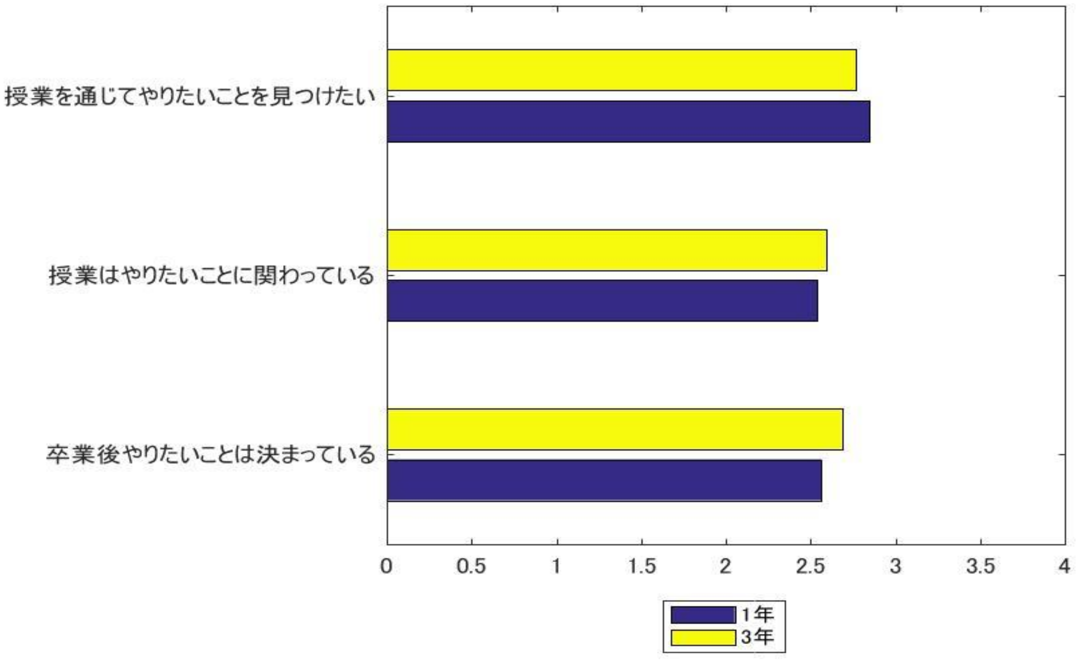


図３－１２．大学授業と学生への関係

3.3. 進路に関する質問

本質問項目は，卒業後の進路に関する希望や考えを問う項目である.

問１２　卒業後の進路についてどのような希望をもっています（いました）か。

本項目は, 卒業後の進路についての希望を大学入学時点と現時点においてどうであったのか，どうなのかを問うものである．また，進路が決定しているか否かについても質問している.

質問項目は以下の通りである.

- 民間企業に就職する
- 公務員になる
- 教師、税理士、中･上級情報処理技術者などのある程度高度な専門職につく
- 自営など上記以外の形で就職する
- 大学院などに進学する（海外含む）
- その他
- 決めていない

これらの項目に関して以下の選択肢の中で該当するものにマークを付けて回答される.

- 大学入学したとき（いくつでも○）
- 現在の希望（いくつでも○）
- 決定している（一つだけ○）

本項目に対する回答結果を図３－１３に示す.

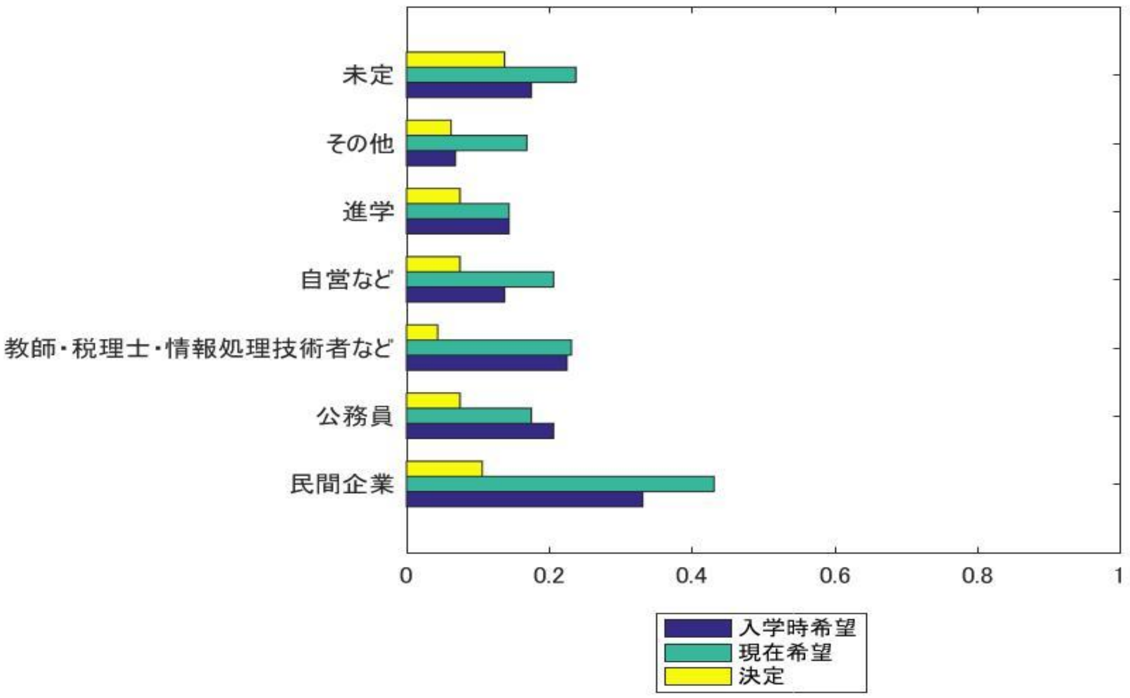


図３－１３．卒業後の進路に関する希望

本結果より，入学時の希望および現在の希望としては，民間企業への就職を希望する学生が最も多い．2 年前の 1 年生と比較すると，教師・税理士・情報処理技術者などの専門職や自営を現在希望している学生の割合が減っており，この傾向は 1 年生，3 年生両学年において共通していた．

問１３　就職する上で、次の点はどの程度重要と思いますか。

本問は, 就職する上でどのようなことが重要であると学生が考えているかを問うものである．項目は次の通りである．

- どの大学（大学院）を出たかということ
- どの分野を専攻したかということ
- 個人としての能力

これらの項目に対して次の項目から選択する．

1. 重要ではない
2. ある程度重要
3. きわめて重要

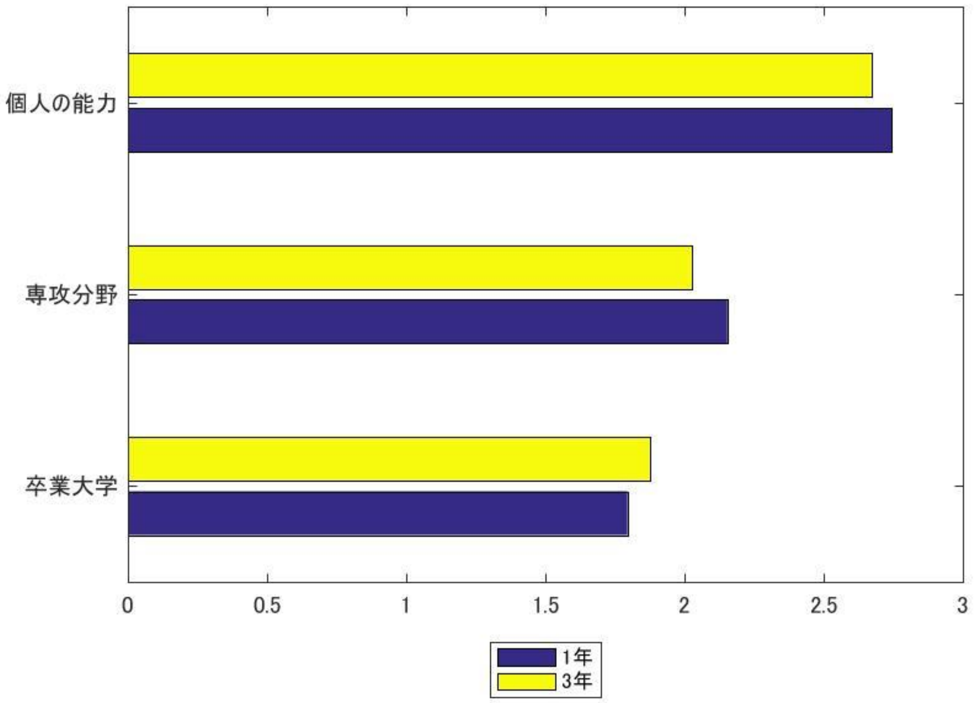


図３－１４．就職する上で，どの程度重要であるかに関する回答結果

本問への回答結果を図３－１４に示す．回答結果を見ると，学生達は，個人能力がもっとも重要であると考えている．評価値は「２．ある程度重要」と「３．きわめて重要」の間にある．それと比較して，どの大学や大学院を出たかは，さほど重要ではないと考えている．この結果はいずれの項目においても 2 年前の 1 年生とも有意差はなく，また昨年度と同様である．

問１４　仕事にどのようなことを望みますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

本問は, 学生が仕事に対してどのようなことを望んでいるのかを問う項目であり, 問６と同様に，A 項目と，それと対照的な B 項目のいずれに近いかを答える形式での設問となっている．質問項目は以下の通りである．

A　チームで仕事をして成果を分かち合う
B　個人の努力が成果に結びつく

A　あらかじめ決められたことを形にする
B　新しい商品やサービスを生み出す

A　年齢や経験を重視した給与
B　個人の業績や能力が大きく影響する給与

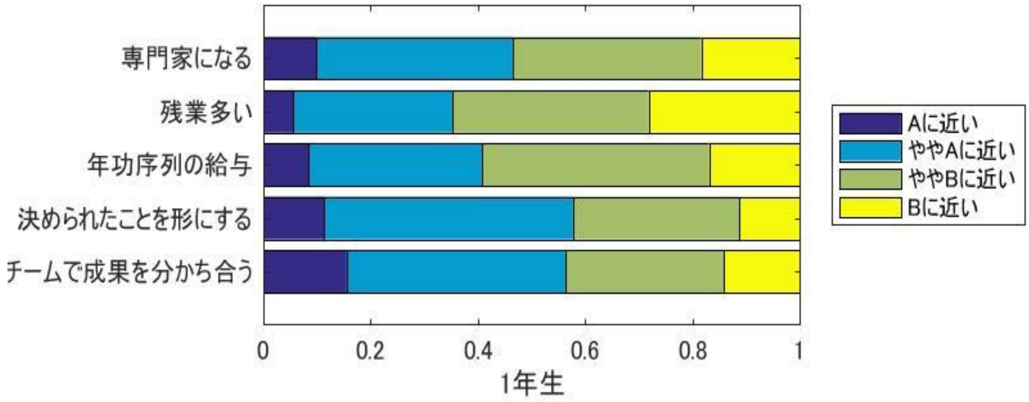
A　残業が多くてもキャリアアップできる
B　残業が少なく自分の時間が持てる

A　一つの仕事で専門家になること
B　いろいろな仕事を幅広く経験できること

これらの項目に対して次の４項目から選択することを求めている.

1. A に近い
2. ややＡに近い
3. ややＢに近い
4. Ｂに近い

本問に対する回答結果を図３－１５に示す. A よりの回答した学生の割合が多い項目は，１年生は「チームで仕事をして成果を分かち合う」および「あらかじめ決められたことを形にする」，３ 年生は「チームで仕事をして成果を分かち合う」だけである.「個人の努力が成果に結びつく」ことを希望する学生が少ないのにも関わらず，「個人の業績や能力が大きく影響する給与」や「残業が少なく自分の時間が持てる」ことを希望する学生の割合が多い. チームで仕事をして成果を分かち合いつつも, 給与に関しては年功序列ではなく個人の能力で評価を希望していると考えられる.



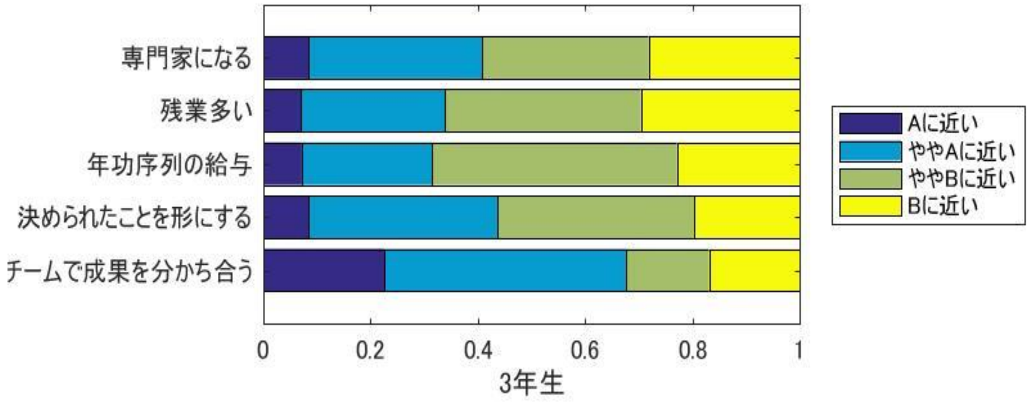


図３－１５．仕事に望むことに関する回答結果

問１５　大学を卒業後のキャリアについてどう考えていますか。

本問は，卒業後のキャリアについての展望を９項目に関して質問している．その内容は以下の通りである．

- すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる
- すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない
- すぐに大学院などに進学する
- 就職してから大学院への進学を考える
- 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない
- 卒業後すぐには就職しなくてもよい
- 最初の就職先にできるだけ長く勤める
- 何年かして転職や独立をする
- 結婚・出産したら仕事をやめる（女性のみ）

本質問項目に対する回答項目は以下の通りである．

1. そう思わない
2. ある程度思う
3. そう思う

本問への回答結果を図３－１６に示す．中間値である「２．ある程度思う」より強く思う項目は，「最初の就職先にできるだけ長く勤める」および「すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる」となっている．両者を合わせると，転職を繰り返すよりも，安定した職場で長く働きたいという考えが表れている．これは昨年度，今回と共通の傾向となっている．

一方，値が低い，すなわち，思わない程度が大きいのは，「すぐに大学院などに進学する」，「就職してから大学院への進学を考える」，「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」，「卒業後すぐには就職しなくてもよい」となっており，将来進学することは考えておらず，また卒業後にはいずれかの企業に就職を希望しているという考えが現れている．

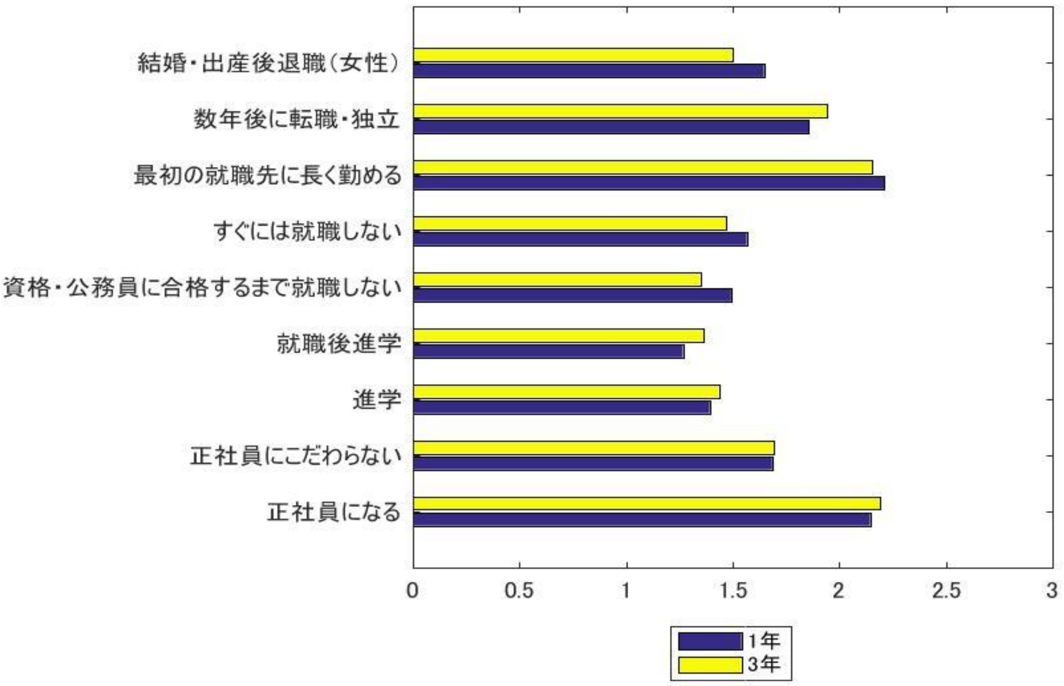


図３－１６．大学卒業後のキャリアに関する回答

3.4. 日常生活に関する質問

本項目は，学生が日常どのように過ごしているのかに関する質問を行っている．

問１６　今学期は、大学にはどの程度きていますか。また授業にはどれくらい出席していますか。

本項目は，学期中において，週あたり何日通学しているのか，また，授業への出席率がどの程度なのかを問う質問項目である．

図３－１７に週当たりの通学日数の割合を示す．週６，７日と答えた学生が１年生においては２割を超えており，必修科目などで授業に加えて部活動によって１週間のほとんどを大学で過ごしている学生がいる可能性がある．

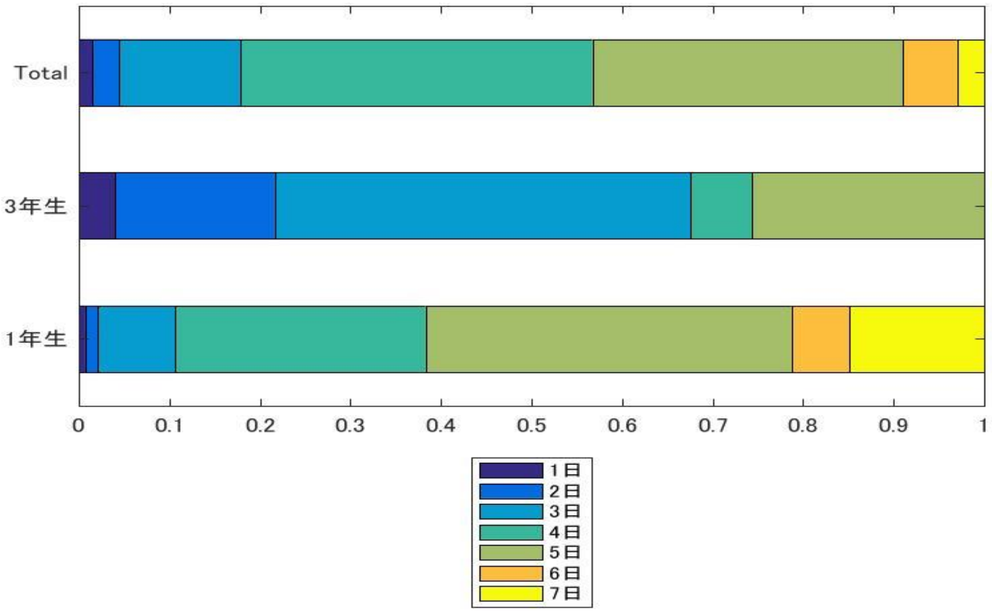


図３－１７．週あたりの通学日数

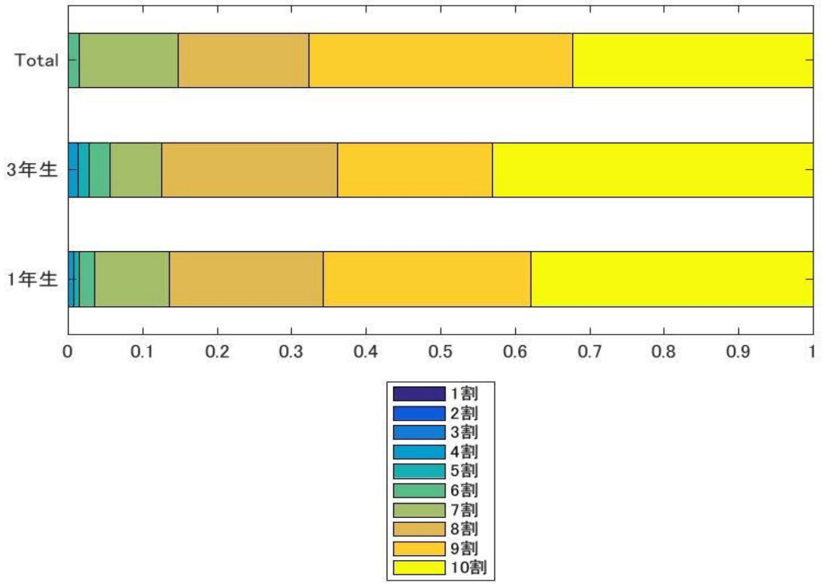


図３－１８．授業への出席率に対する回答結果（単位： 割）

授業への出席率に関しての結果を図３－１８に示す．ほとんどの学生が 8 割以上と答えている．本調査結果からは，学生が授業への出席率をより強く意識していることが窺える．

問１７　典型的な１週間の平均的な生活時間を、学期中と休暇中の別に教えてください。

本問は，日常生活において，どういう活動にどの程度の時間を割いているかの回答を求めるものである．具体的な質問項目は以下のとおりである．

- 学期中の生活時間
  - 授業・実験への出席
  - 授業・実験の課題、準備・復習
  - 卒業研究・実験・卒論（該当者のみ）
  - 授業とは関係のない学習(趣味や資格取得等の学習)
  - サークル・クラブ活動
  - アルバイト・仕事

- 休暇中
  - 学習

➢ サークル・クラブ活動
➢ アルバイト・仕事

以上の項目に対する回答選択肢は以下の通りである．

1. 0 時間
2. 1—5
3. 6−10
4. 11−15
5. 16−20
6. 21−25
7. 26−30
8. 31 時間以上

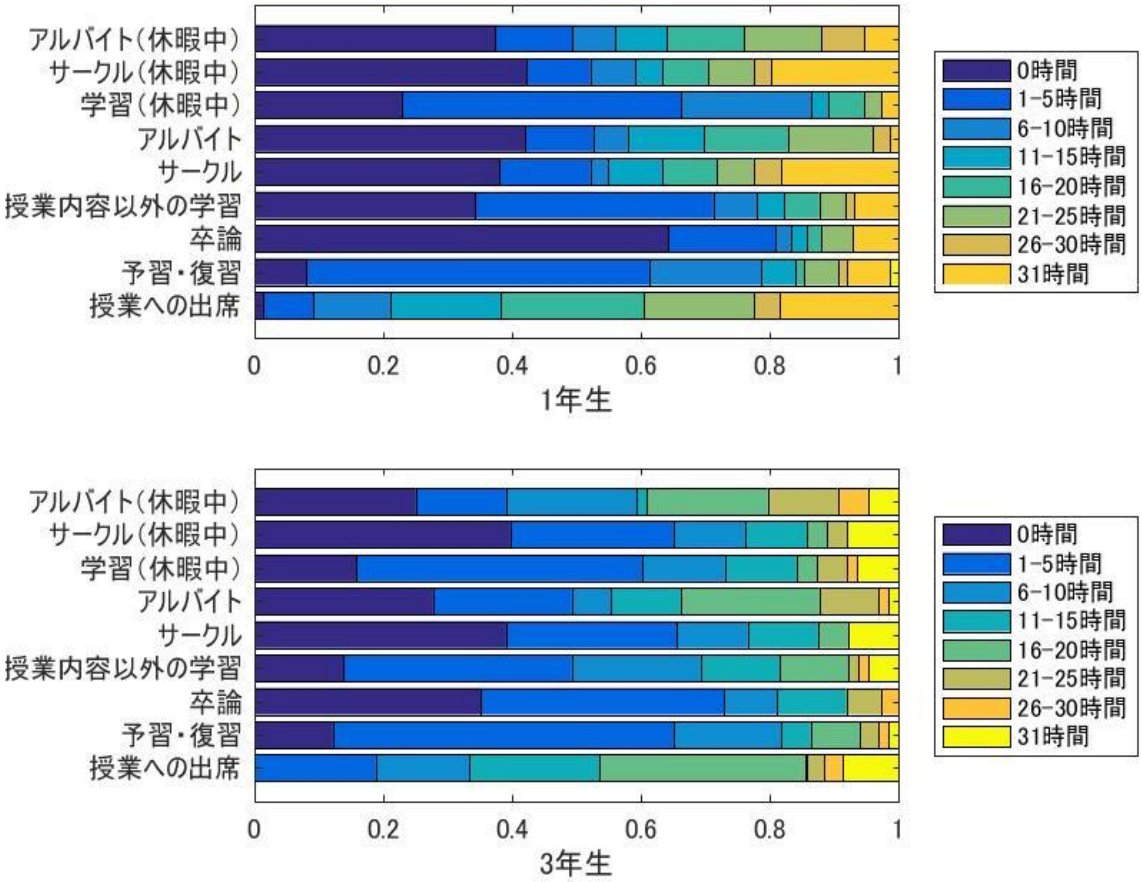


図３－１９．生活時間に関する回答

図３－１９に生活時間に関する回答結果の割合を示す. 割合の大きな時間を見ると，授業・実験への出席に関しては，１１～１５（１１～１５）時間，予習・復習に関しては，１～５（１～５）時間，卒研・卒論に関しては０（０）時間，その他の学習に関しては，（１～５） １～５時間，部活に関しては，０（０）時間，アルバイトに関しても，０（０）時間という結果になった．授業と予習・復習のための時間を合わせた学習時間の確保が今後の大きな課題となろう. 休暇中は学習時間が減少している.

問１８　あなたは本（マンガを除く）を１ヶ月に何冊くらい読みますか。

本問は，読書の傾向を答えてもらうものであり，１ヶ月あたりどの程度の冊数の読書をしているのかを質問している．その結果を図３－２０に示す.

本項目への回答者 142 名中，68 名，48%（46%）が０冊と回答している． １冊との回答 30 名 21%（28%）と合わせると，（回答した）学生の 69% (73%)が１ヶ月あたり１冊読むか読まないかという状況である．昨年度の調査と比べると，その割合は減少しており，国語教育などの活動を通じて，学生達が読書をする機会をより多く提供することが望まれる.

なお，10 冊以上読むと回答した学生は４名 3%（4%）存在している.

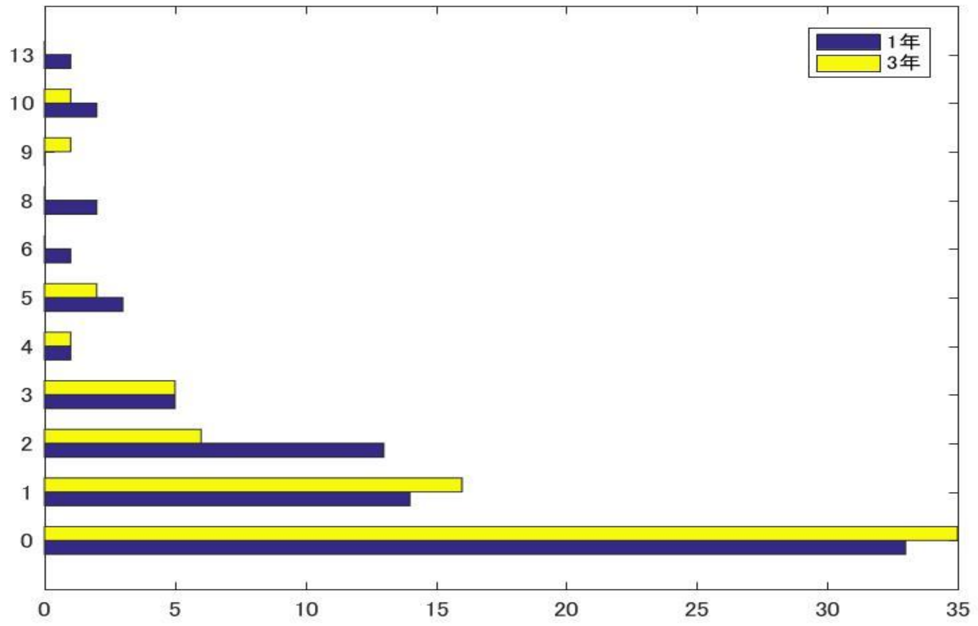


図３－２０．１ヶ月当たりの読書冊数

問１９　あなたは、どのような友達とよく話をしていますか。

本問は学生の友達関係に関する設問であり，どのような人間関係の中で大学生生活を過ごしているのかに関する情報提供を求めている．具体的には次のような４項目が設定されている．

- コミュニケーションと自己発見のともだち
- 基礎ゼミまたは、専門ゼミのともだち
- サークルなどのともだち
- 上記以外のともだち

これらの項目に関して，次の４つの選択肢の中からコミュニケーションの程度を答えるようになっている．

1. ほとんどない
2. あまりない
3. ときどきある
4. よくある

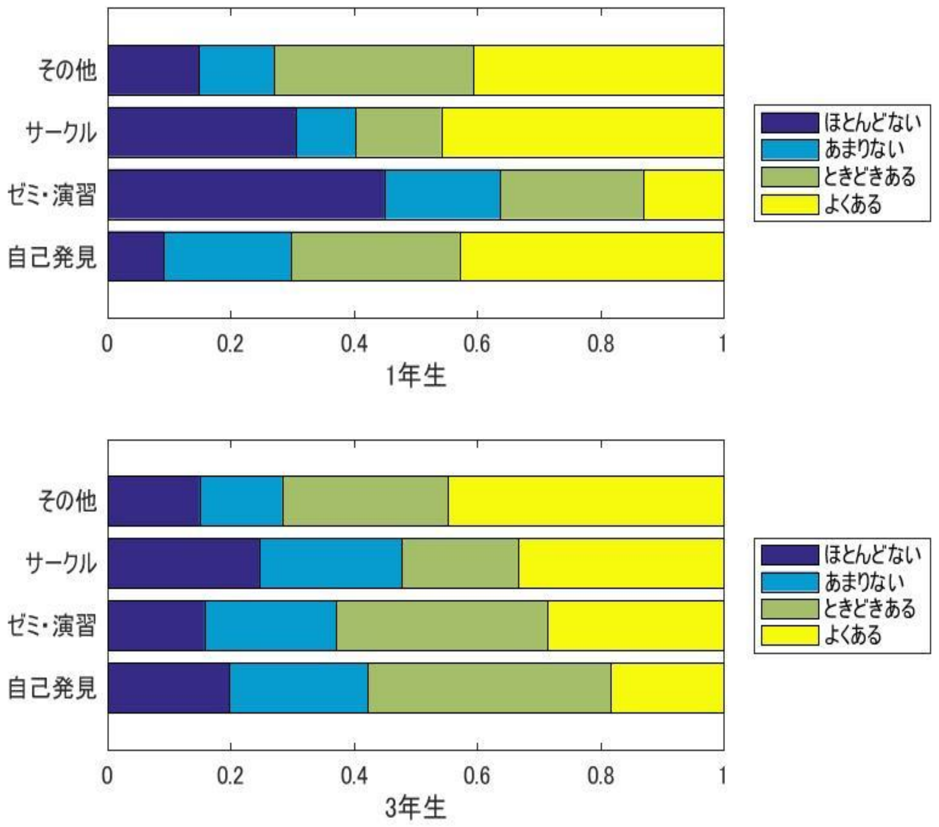


図３－２１．友達とのコミュニケーションの程度

本問に対する回答結果を図３－２１に示す．１年生においては７割の学生がその他のともだちおよびコミュニケーションと自己発見のともだちと，ときどき以上に話をしていると答えている．それに次いでサークルの友人とのコミュニケーションが多い．３年生においてもその他のともだちとよく話しているが，ゼミ・演習のともだちとのコミュニケーションが多くなっている．２年前の１年生と比較すると，現１年生に関しては有意差はないが，３年生においてはコミュニケーションと自己発見のともだちとのコミュニケーションが有意に減り（$p < 0.0001$），ゼミ・演習のともだちとのコミュニケーションが有意に増加した（$p = 0.03$）．３年生になり専門ゼミ・演習の仲間とのコミュニケーションの割合が増加したものと思われる．

3.5. その他の質問

本問では，以上の質問項目以外で，学生が普段感じていることなどを質問している．

問２０　あなたは、これまでに次のようなことを感じたり思ったりしたことがどのくらいありますか。

本問は，悩み，感じたこと，思っていることに関する追加の質問として１２問を設定している．具体的には以下の通りである．

- 生活に熱意がわかない
- 友達のことで悩みがある
- 先生のことで悩みがある
- 授業の内容についていっていない
- 授業に興味・関心がわかない
- 進級や卒業ができるか心配だ
- 他の学科・大学に入り直したい
- 大学を辞めたいと思うこともある
- 経済的に勉強を続けることが難しい
- まわりの学生がやる気がない
- やりたいことが見つからない
- 就職活動が思い通りに行かない（４年生以上）

本問では，これらの項目それぞれに対して，以下の４つの選択肢からの回答を求めている．

1. ほとんどない
2. あまりない
3. ときどきある
4. よくある

＊＊＊＊＊ここから＊＊＊＊＊

本問に対する回答結果を図３－２２に示す．ときどきあるやよくあるを選択した割合が多い項目は，「進級や卒業ができるか心配だ」や「授業に興味・関心がわかない」,「やりたいことが見つからない」などの項目であり，授業や将来に関連した悩みが大きいことが窺える．

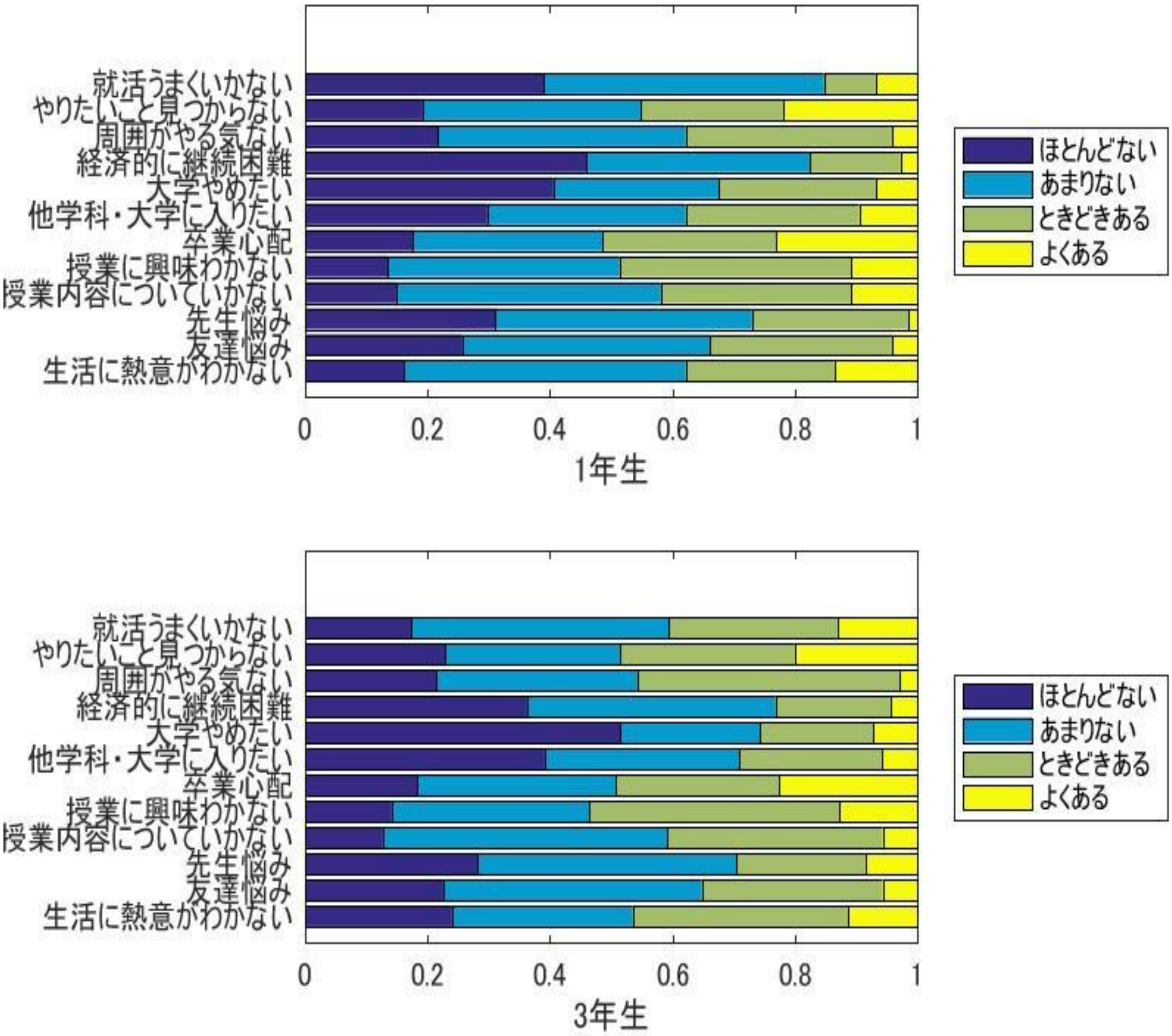


図３－２２．悩みや思いなどに関する設問への回答結果

また，2 年前の 1 年生と比べると，「友達のことで悩みがある」学生の割合が両学年ともに有意に増加しており（1 年生 $p = 0.007$, 3 年生 $p = 0.003$），1 年生に関しては「やりたいことが見つからない」の項目も有意に増加していた（$p = 0.04$）.

問２１　次のような点で本学は成功していると思いますか。また将来の本学にとって重要だと思いますか。

本問は，本学全般に関する学生の認識を問う設問である．本学の現状と将来に分けて評価を求めている．具体的な設問項目は以下のとおりである．

- 専門分野の理論を深く教育する
- 職業にすぐ役立つ教育をおこなう
- 専門の基礎をなす基本的知識や考え方を教育する
- 専門にこだわらない、幅広い教育を行う

これらの設問に対する選択肢は以下の通りである．

現在の評価：

1. 成功していない
2. ある程度成功している
3. 成功している

将来のありかたとして：

1. 重要ではない
2. ある程度重要
3. きわめて重要

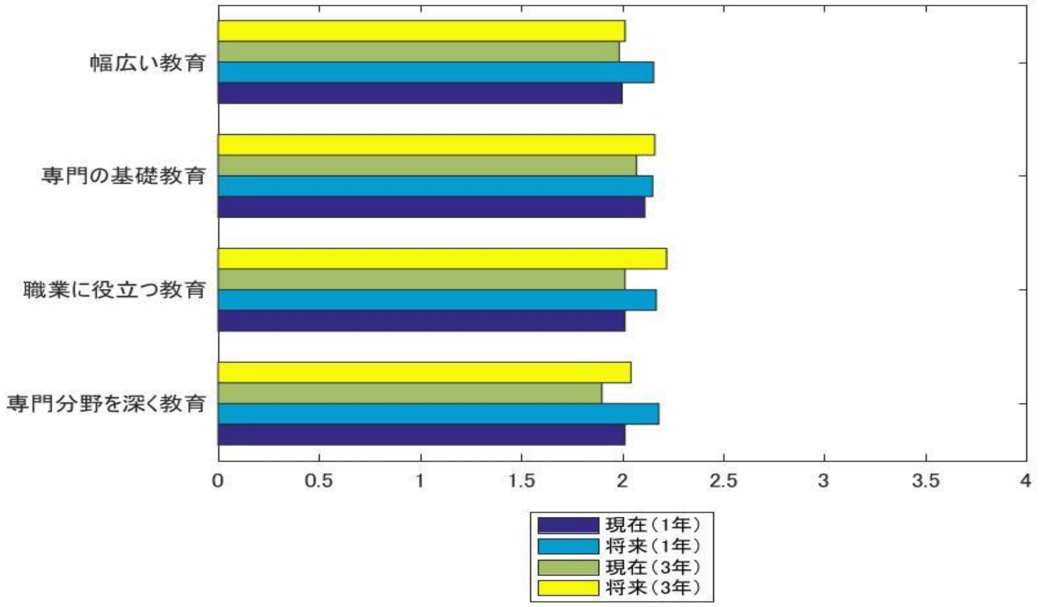


図３－２３．本学の現在，将来に対する学生の評価

これらの設問に対する回答結果を図３－２３に示す．いずれの項目に関しても「２．ある程度成功している」前後の評価値をとっている．また，将来に関しては，いずれの項目も現在の評価よりも高い値を示しており，全項目が将来のあり方として重要だと学生に考えられている．

問２２　本学の教育について、あなたのご意見を自由に記入してください。

本項目は，本アンケート調査の最後の項目として，自由テキストとして意見を求める設問である．本項目への回答者は「特になし」などを含め，56 名（全体の 35%）となっている．以下に，回答のいくつかを紹介する．

好意的コメント：
- すごくいい大学だとおもいます。
- いつもありがとうございます。
- 専門分野を深く研究した教育を深くおこなっている。
- コミュニケーションと自己発見のような授業があってよかったと思います。
- 先生方一人一人がとても熱意をもっていて良いと思う

自分の決意表明的なコメント：
- 後期もなまけずがんばっていきます。ありがとうございました。

否定的コメントや要望：
- たまに、ホワイトボードに書いてる字が読みにくく、ノートに書くときに書きにくい。
- 授業改善アンケートをみて、授業の仕方を見直した方が良い先生が多い。
- 情報大のわりにあまりインターネットを活用していないし、経営学科なのにあまりそういう知識や形態などを活用していないように感じました。
- 授業の内容をシラバスのようにできているのか、見直ししたがいい授業があるきがする。
- 学校の食堂、価格が高いしおいしくない。
- 食堂の価格は高くて味まずい。態度もよくない。
- 学校の価格が高く、まずい。
- また、りゅうがくせいが、ほかのアメリカけいにいけるように、ほかの大学とむすびあってほしいです。
- 単位制度あまりよくない。特に、経営学科の学生たちは情報学科を勉強するこ

と。

- 学生が少なくて友達を作りにくいと思います。
- トイレをきれいにしてほしい。学内のバックボーンを 10Gbps ほどあげてほしい。（低速すぎて授業がまともにできない！）
- 実習の教育が大い方がいいと思います。
- もう少しプログラムや経営などの分野をほり下げてもいいと思う。1 年生の頃、パソコンを使用する授業が少なくて、少し残念に思った頃があるので、もう少しパソコンにふれていられる授業を増やしてもいいと思います。
- 中途半ぱだったり、やる気がおこるような教え方をしてほしいなど、先生方のほうにも少し問題がある場合もある。
- もう少し英語力をあげられる講義をうけたいです。
- テストに重要なことなど一つ一つの事をしっかりとわかりやすく教えてほしい。出席を重視してほしい。
- この大学の良い所は、外人さんが多く国際交流ができる所だと思うので、それを生かした教育をもっとするべきだと思う。
- 自分の将来を考えることがあっても、職種などをあまり教わらない。
- 将来的に必要なのか分からない授業が多く、またついていけないようなことが多い。
- バイトをしている人としては、一年生の後期にとらなければいけない 5 時間目までの授業が多すぎる。
- 1 年生の必修で経営情報学部の人がネットワークの授業、ネットワーク学科の人が経営系の授業を受けないといけないのは分かるが、2 年からも別の学科の単位をとらないといけないというのが意味わからない。何のために学科を選んだのか分からない。其の上、別の学科の科目は取れない科目もあるので本当に取りたい授業が取れなくなってしまう。もう少し別の学科の取る科目を減らしてほしい。興味がない授業を卒業する単位に必要だから仕方なく受けるみたいになってしまう。（自分はそうなっている）
- 経営学部なら幅広い教育がいいと思う。情報ネットワーク学科なら専門性が高い。いろいろな勉強したら混雑になった。忘れやすいと思う。

今後は，これらのコメントを参考に，授業内容のより分かりやすい説明方法の工夫を行うなどの教員側の努力と共に，学生自身も真摯に学ぶ姿勢をもつような「学びの文化」を醸成していくことが望まれる．

４．まとめ

本稿では，2016 年度に実施された本学（九州情報大学）の学生実態調査アンケートへの回答の概要を報告した．本アンケートは全２２問からなる．これらの設問は，[1]授業（７問），[2]大学教育（４問），[3]進路（4 問），[4]生活（4 問），[5]その他（3 問）に分かれている．本報告書では今年度の回答結果を示すとともに，昨年度（2015 年度）および現 3 年生が 1 年生であった一昨年度の 1 年生（2014 年度）の結果と比較しつつ，データから様々な示唆を読み取ることを目指した．

未回答の項目もいたるところにあり，また，異常値の記入があるなど，データの正確性には疑問は残るものの，回答全体の傾向を見ることにより，学生の実態の把握や, 学生の希望や, 教育を中心とした本学の課題のいくつかを知ることができた．たとえば，大学教育への要望として，1 年次には自分のレベルにあった授業を望む傾向にあるが，3 年次になると授業は難しくてもチャレンジングな方がいいと感じる傾向にある。3 年次の学生が 1 年次の当時に比べて学習意欲が削がれている要因として，高年次においても基礎教育が多いように感じているものと考えられる。自由コメントにおいても見受けられるが, 現カリキュラムに不満を持つ学生がいるようである．資格の取得や将来の職業に役立つ実践的な教育の強化を望む一方，最先端の研究成果に関しても授業で取り上げて欲しいという声が少なからず存在する．また，在学中の目標として重視しているものとして，資格や公務員試験の合格を重視している学生は他の項目に比べると低く, 将来の方向性を見つけることや将来活かせる能力を身につけることを重視している学生が多いことからも, 低年次における幅広い裾野を広げる教育と高年次における専門分野を掘り下げるより高度な教育を学生は望んでいるものと考えられる．

本学としては，このような調査を通じて示唆された学生の期待に応えるべく，今後も努力や工夫を継続していく必要がある．

付録

次ページ以降に本アンケート調査「２０１６　本学学生実態調査」の内容を示す．

２０１６．本学学生実態調査

九州情報大学

以下のアンケートにお答えください。
アンケートは、今後本学の教育システムを、よりよく改善するためのものです。したがって出来る限り、ありのままの事実・感じ方に基づいて各項目の記載・選択することをお願いします。
回答は、あてはまる項目に〇または数字を記入してください。

あなたについて

学　　科		経営情報学科			情報ネットワーク学科
コース名					コース　※3 年生のみ記入
現在の学年		1 年生			3 年生
性別・年齢		男		女	（　　　　　）才
出 身 地		日本			日本以外(　　　　　)

[１]授業についてお聞きします

問１　大学に入ってから次のような経験はありますか、またそれは有用でしたか。

	経験した				経験していない
	有用ではない	どちらともいえない	有用	非常に有用	
入学時、各学年初め、学期初めのオリエンテーション					
高校での未習科目を学ぶための補修的な科目や大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目(大学基礎総合、コミュニケーションと自己発見など)					
就職や将来のキャリアをテーマとした科目(キャリアデザイン入門、キャリアデザインなど)					
インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）					

問２　あなたにとって**<u>意味があった</u>**と思う授業を思い出してください。

A.　それはこれまで受けた授業の何割くらいですか。基礎総合科目、専門教育科目の別にお答えください。

基礎総合科目	専門教育科目
割	割

B.　それらの授業にあてはまる特徴はどんなことですか（○はいくつでも)。

基礎総合科目	専門教育科目	
		最先端の研究成果を披露してくれた
		確実に学問の基礎を教えてくれた
		社会や現実との関わりから学問の意義を教えてくれた
		将来に役立つ実践的な知識や技能を教えてくれた
		資格の取得に役立つ情報やテクニックを教えてくれた
		教え方がうまかった
		自分自身や将来やりたいことを考えるきっかけになった

問３　これまで受けた授業の形態について、全体が 10 割になるようお答えください。

講義(100 人以上)	講義(50 人以上 100 人未満)	講義(20 人以上 50 人未満)	講義(20 人未満)	演習・ゼミ	実験・実習

割	割	割	割	割	割

問４　これまで受けた授業では、下のようなことがどれくらいありますか。
またそれは、必要ですか。

	経験したか				必要か		
	ほとんどなかった	あまりなかった	ある程度あった	よくあった	必要ではない	ある程度必要	非常に必要
授業内容に興味がわくよう工夫されている							
理解がしやすいよう工夫されている							
出席が重視される							
最終試験の他に小テストやレポートなどの課題が出される							
授業中に自分の意見や考えを述べる							
グループワークなど、学生が参加する機会がある							

問５　あなた自身は、授業に対してどのように取り組んでいますか。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ある程度あてはまる	あてはまる
興味のわかない授業でもきちんと出席する				
なるべく良い成績をとるようにしている				
グループワークやディスカッションに積極的に参加している				
先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている				
必要な予習や復習はした上で授業にのぞんでいる				

問６　大学での学び方について、あなたの考えに近いものを選んでください。

A	Aに近い	ややAに近い	ややBに近い	Bに近い	B
授業はとり方があらかじめ決まっている方がよい					授業は自分で好きなようにとりたい
授業の意義や必要性を教えて欲しい					授業の意義や必要性は自分で見出したい
授業の中で必要なことは全て扱って欲しい					授業はきっかけで、後は自分で学びたい
自分のレベルにあった授業をして欲しい					授業は難しくてもチャレンジングな方がいい
専門以外のことも広く学びたい					専門分野を深く学びたい

問７　あなたの成績について教えてください。

優	良	可
割	割	割

[２]大学教育への評価をうかがいます

問８　次の点で大学の授業は、どのくらい役立っていると思いますか。また自分の実力はどの程度あると思いますか。

	これまでの授業経験は				自分の実力は			
	全く役立ってない	少しは役立ってる	役立っている	多いに役立っている	不十分	やや不十分	やや十分	多いに十分
将来の職業に関連する知識や技能								
専門分野での知識・理解								
専門分野の基礎となるような理論的理解・知識								
論理的に文章を書く力								
人にわかりやすく話す力								
外国語の力								
ものごとを分析的・批判的に考える力								
問題をみつけ、解決方法を考える力								
幅広い知識、ものの見方								

問９　あなたの大学について次の点でどのくらい満足していますか。

	不満	ある程度不満	ある程度満足	満足
授業外での教員との接触（ｵﾌｨｽｱﾜｰ、ｾﾞﾐを含む）				
図書館などの学習施設				
実験・実習などのための施設				
就職指導（CDC）				
就職指導（ｾﾞﾐ教員）				
学習・生活面でのカウンセリング				
学習以外の大学での経験				
大学生活全般				

問１０　大学在学中の目標として、どのようなことが重要ですか。

	重要でない	少し重要	ある程度重要	重要	最も重要
将来の仕事に活かせる能力を身につける					
資格試験・公務員試験などに合格する					
専門分野の知識・理解を深める					
広い教養、ものの見方を身につける					
自分の将来の方向をみつける					
社会人になるまでの時間をエンジョイする					
有意義な人間関係を築く					

問１１　大学の授業とあなたとの関係についてどう思いますか。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ある程度あてはまる	よくあてはまる
卒業後にやりたいことは決まっている				
大学での授業はやりたいことに密接に関わっている				

授業を通じてやりたいことを見つけたい				

[３]卒業後の進路

問１２　卒業後の進路についてどのような希望をもっています（いました）か。

	大学入学したとき（いくつでも○）	現在の希望（いくつでも○）	決定している（一つだけ○）
民間企業に就職する			
公務員になる			
教師、税理士、中･上級情報処理技術者などのある程度高度な専門職につく			
自営など上記以外の形で就職する			
大学院などに進学する（海外含む）			
その他			
決めていない			

問１３　就職する上で、次の点はどの程度重要と思いますか。

	重要ではない	ある程度重要	きわめて重要
どの大学（大学院）を出たかということ			
どの分野を専攻したかということ			
個人としての能力			

問１４　仕事にどのようなことを望みますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

A	Aに近い	ややAに近い	ややBに近い	Bに近い	B
チームで仕事をして成果を分かち合う					個人の努力が成果に結びつく
あらかじめ決められたことを形にする					新しい商品やサービスを生み出す
年齢や経験を重視した給与					個人の業績や能力が大きく影響する給与
残業が多くてもキャリアアップできる					残業が少なく自分の時間が持てる
一つの仕事で専門家になること					いろいろな仕事を幅広く経験できること

問１５　大学を卒業後のキャリアについてどう考えていますか。

	そう思わない	ある程度思う	そう思う
すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる			
すぐに就職するが正社員･正規の職員にこだわらない			
すぐに大学院などに進学する			
就職してから大学院への進学を考える			
資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない			
卒業後すぐには就職しなくてもよい			
最初の就職先にできるだけ長く勤める			
何年かして転職や独立をする			
結婚・出産したら仕事をやめる（女性のみ）			

[4]日常生活について

問１６　今学期は、大学にはどの程度きていますか。また授業にはどれくらい出席していますか。

学期中、大学に来ている日	週に　　　　日	授業への出席率	割

問１７　典型的な１週間の平均的な生活時間を、学期中と休暇中の別に教えてください。

		0時間	1―5	6―10	11―15	16―20	21―25	26―30	31時間以上
学期中	授業・実験への出席								
	授業・実験の課題、準備・復習								
	卒業研究・実験・卒論（該当者のみ）								
	授業とは関係のない学習(趣味や資格取得等の学習)								
	サークル・クラブ活動								
	アルバイト・仕事								
休暇中	学習								
	サークル・クラブ活動								
	アルバイト・仕事								

問１８　あなたは本（マンガを除く）を１ヶ月に何冊くらい読みますか。

	読まない	読む場合は	冊

問１９　あなたは、どのような友達とよく話をしていますか。

	ほとんどない	あまりない	ときどきある	よくある
コミュニケーションと自己発見のともだち				
基礎ゼミ･演習または、専門ゼミのともだち				
サークルなどのともだち				
上記以外のともだち				

[５]最後に

問２０　あなたは、これまでに次のようなことを感じたり思ったりしたことがどのくらいありますか。

	ほとんどない	あまりない	ときどきある	よくある
生活に熱意がわかない				
友達のことで悩みがある				
先生のことで悩みがある				
授業の内容についていっていない				
授業に興味・関心がわかない				
進級や卒業ができるか心配だ				
他の学科・大学に入り直したい				
大学を辞めたいと思うこともある				
経済的に勉強を続けることが難しい				
まわりの学生がやる気がない				
やりたいことが見つからない				
就職活動が思い通りに行かない				

問２１　次のような点で本学は成功していると思いますか。また将来の本学にとって重要だと思いますか。

	現在の評価			将来のありかたとして		
	成功していない	ある程度成功している	成功している	重要ではない	ある程度重要	きわめて重要
専門分野の理論を深く教育する						
職業にすぐ役立つ教育をおこなう						
専門の基礎をなす基本的知識や考え方を教育する						
専門にこだわらない、幅広い教育を行う						

問２２　本学の教育について、あなたのご意見を自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。